

No.	所属	委員名	該当資料	御意見・御助言	スポーツ課からの回答
1	柏市小中学校長会修学旅行部会 副部長 (柏市立光ヶ丘中学校長)	長谷川 正一	資料1	10年間の推進計画ではありませんが、5年間の社会情勢やスポーツ界を取り巻く状況の変化、また、このコロナ禍の後のスポーツ環境等を考えると、中間年でもある今年度に見直しをすることは望ましいと言えます。	今年度中に見直し作業の完了に向け、努めてまいります。
2	柏市小中学校長会修学旅行部会 副部長 (柏市立光ヶ丘中学校長)	長谷川 正一	資料3別添	それぞれの結果分析からも見えていることですが、「7 自由意見」を見ると、「スポーツに関する講座や教室の充実」、「スポーツ・運動をする施設や環境の整備」、「市営スポーツ施設の充実」などの意見が多く挙げられていて、このことから今後は、「一つずつの充実」だけではなく、できることなら複合的な考えのもと、「市民が運動やスポーツに親しみを持って、より身近に行える環境の整備」が、今まで以上に必要なのではないかと考えます。また、それ以外にも、幅広い年齢層への「市の取り組み」や「スポーツ団体」の紹介等の周知の方法についても、検討、見直しを図るよい機会でもあると考えます。	本計画は10年間を見据えたものであり、今回の見直しでは基本施策の大幅な変更は予定しておりませんが、限られた資源のなかで効果的にスポーツ推進を図る必要性と市民ニーズを勘案し、今後の個別事業に複合的な政策意図を持たせて展開していくことで、より幅広いニーズを拾いあげ、本市のスポーツ環境の土台となる施策として効率的に機能させていくことが求められているものと考えております。 上記のことを踏まえ、施策体系の位置づけにとられない横断的な事業展開が図れる旨の趣旨を計画に追加していくことを検討します。 また、「市の取り組み」や「スポーツ団体」の紹介等の周知の強化については、現行計画でも重点的な取り組みとして掲載しており、よい手法の検討を中心に各委員からの御意見をいただきながら継続的に取り組む必要があると考えております。
3	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科長	内藤 久士	資料1	見直しの基本方針は、提案のとおりで良いと思います。 しかし、趣旨に明記されている「社会情勢の変化やスポーツをめぐる環境を踏まえた中間見直し」、基本方針の「新たな重点分野を設定」、計画の「重点分野」で対応予定だとは思っていますが、当初には想定されていなかった、コロナ禍によって求められている「新たな生活」におけるスポーツ推進の在り方を明確に基本方針に位置づけておく必要があるのではないかと感じます。 この点は、当然ながら、国の打ち出す方向性との整合性、あるいは市の特性を踏まえた独自性が重要な視点となりますが、これをどの程度中間見直しに盛り込むかは、現実的な観点から議論が必要になると思います。	新型コロナウイルス感染症によるスポーツへの影響は、本市においても手賀沼エコマラソンをはじめとした今年度の推進イベントの中止に表れているところです。 コロナ禍におけるスポーツ推進の在り方については、「新たな生活様式」として様々な制限を受けながらもスポーツ活動を継続していくことが必要であり、今回の計画見直しにも反映させていかなければならない事項であると考えております。 今後、審議会において事務局案を提示しながら、計画への落とし込みをしていきたいと考えております。
4	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科長	内藤 久士	資料3別添	まだ概要版ですので、詳細はこれから明らかになるとは思いますが、次の観点での分析結果の明示をお願いいたします。 ① 年齢別×性別の有効数がどの程度であったのか。全体集計だけからの分析では、年代×性別の回答状況のバイアスが、結果の解釈に大きな影響を与える可能性が危惧されます。実際にはどうだったのでしょうか？また、次回調査の標本設計において、できる限り年代×性別の有効回答数が均等になるように、年代×性別の予想回答率から依頼数（抽出数）を増減できるように今回の回答状況に関する情報をしっかりと残してください。 ② 上述した①とも関連しますが、年代×性別の回答状況のバイアスを考慮し、特に男女別の観点で分析を行わないと、解決すべき課題とそれに基づいた重点化すべきポイント設定を誤る可能性があります。サンプル数が少なくなるとは思いますが、全体平均的な解析とともに、市民の基本的な属性別に課題を浮き彫りにする作業が必要だと思しますので、分析を宜しく願います。	年齢や性別を踏まえた属性別の課題や施策の方向性等については、次回審議会にて可能な範囲でお示しできるよう資料作成に努めてまいります。
5	川村学園女子大学教育学部社会教育学科学科長	藤原 昌樹	資料1	中間見直しの趣旨に「社会情勢の変化やスポーツをめぐる環境を踏まえて中間見直しを行い」とある。見直しの基本方針には、新型コロナウイルス感染予防に対する「新しい生活様式」におけるスポーツの在り方を盛り込む必要があると思われる。「5つの計画の取り組み」に加えてもよいのではないかと（6、『新しい生活様式』をふまえた「安心・安全」なスポーツの充実）。	No.3回答と同様となります。
6	川村学園女子大学教育学部社会教育学科学科長	藤原 昌樹	資料3	母集団の性別を抽出条件に加えているのであれば、調査結果も性別の分析を加えるべきである。	No.4回答と同様となります。

No.	所属	委員名	該当資料	御意見・御助言	スポーツ課からの回答
7	川村学園女子大学教育学部社会教育学科学科長	藤原 昌樹	資料3別添	<ul style="list-style-type: none"> 資料3で述べたとおり、性別を分析軸に加えてはどうか。 単純集計で分析しているが、年代別と性別を掛け合わせたクロス集計でみると、より深い考察ができると思われる。 重要なのは調査を行ったことではなく、調査結果を施策（スポーツ推進計画）にどのようにいかしていくかである。何が問題でどう改善すべきかを、総合計画との整合性をふまえて検討する必要があると思われる。 	No.4回答と同様となります。
8	株式会社スポーツ文化 代表取締役	小暮 勇男	資料1	10年の計画期間内に大きな世の中の動きがありました。緊急に対応をしなければなりません。思い切った改革が必要です。新型コロナウイルス感染症は指定感染症として来年1月まで指定されていて、市民の行動に制限がかけられます。そういった社会情勢の中でいかに生活にスポーツを取り入れられるか検討が必要と思われます。	No.3回答と同様となります。
9	株式会社スポーツ文化 代表取締役	小暮 勇男	資料2	過去の見直しも大切かもしれませんが、これからいかに市民が自信を持ってスポーツに参加できるようになるか、またその場が提供できるかを至急検討することが必要と思います。	新型コロナウイルス感染症の脅威が残るなかでは、人が密集しやすいスポーツ活動に対しての不安感がぬぐいきれない面も感じております。そうしたなかでも、市営スポーツ施設や学校体育施設については利用にあたって一定の制限をかけながらも、少しでもスポーツが出来る場として提供を続けているところです。
10	株式会社スポーツ文化 代表取締役	小暮 勇男	資料3	現在の感染予防によるスポーツ環境を調査し、後世に残すことが必要と思われます。この激動の時代がいかに市民のスポーツに影響を及ぼしたか検討する必要があると思います。	市内全域を対象とした調査は困難ですが、関係団体を中心とした聞き取り調査について実施を検討いたします。また、官民を問わず、御意見のあった趣旨の調査が実施された際にはその結果を注視してまいります。
11	株式会社スポーツ文化 代表取締役	小暮 勇男	資料3別添	子どものスポーツ参加について、部活以外で取り組める環境作りが必要だと思えます。今年は運動会も開催されず、スポーツへの関心がより低下しています。スポーツの実施は、人が集まることから始まり、密になる状態で行われていました。仲間との楽しみもスポーツの重要なファクターです。	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により多くの社会活動が様々な制限を求められており、子どものスポーツ環境についても例に漏れない状況であることは認識しております。</p> <p>このような状況下においても、学校体育施設を利用した地域の児童が参加するスポーツ団体の活動が徐々に再開してきており、こうした地域の方々の尽力をスポーツの活性化につなげていくことが出来る場を提供していくことも、スポーツ推進施策の重要な役割であると考えております。</p> <p>引き続き、国や県の指針を参照しながら一定のルールのもとで安心して活動できる場の提供に努めてまいります。</p>
12	一般社団法人柏市スポーツ協会 理事長	井坂 公俊	資料1	<p>「する」「見る」「支える」「利用できる場所」「楽しむきっかけとなる情報」の5項目のスポーツの充実計画について大変素晴らしいものだと思います。</p> <p>これら5項目の共通の課題解消の為の根底になり、啓発・発展・振興の基盤である「施設、設備の充実」が図られる事が、私は何よりも大切なことであると確信しています。ぜひ、中間見直し計画に「施設、設備の充実」を付け加えていただければと思います。特に、「柏市総合運動公園の設定計画」を推進計画の中間見直し項目に追加をお願いします。</p>	<p>資料3別添の18ページにも記載していますが、本市では管理する施設全体を通して柏市公共施設等総合管理計画に基づき統廃合や集約の必要性が検討されているところです。こうした市の基本的スタンスを考慮すると、現時点においては、新たなスポーツ施設の整備よりも既存施設の整理や修繕等で利用者のニーズへの対応や利便性向上に注力していく必要があると考えております。</p> <p>本市のスポーツ推進を考えた際の現状の施設環境を考えれば、委員の御意見に首肯する部分もあり、また、将来的な新たな施設整備を完全に否定するものではありませんが、今回の計画見直しでの「柏市総合運動公園の設定計画」の追加は難しいと考えております。</p>
13	一般社団法人柏市スポーツ協会 理事長	井坂 公俊	資料2	「柏市総合運動公園の設定」を見直し計画に付け加え、推進委員会の先進都市視察計画を予定に入れて頂くことを要望致します。	総合運動公園に限らず、市民ニーズの動向に着目していき、状況や課題に応じた必要な視察について検討してまいります。

No.	所属	委員名	該当資料	御意見・御助言	スポーツ課からの回答
14	一般社団法人柏市スポーツ協会 理事長	井坂 公俊	資料3別添	<p>5 スポーツ政策の推進に関する事項 (5) 柏市に力を入れてほしい事業 (6) 今後のスポーツ施設の充実について</p> <p>上記2項目から「運動・スポーツ施設の整備・充実」についてが、市民の一番多い要望であることは明白であります。5年前のアンケート結果内容は不明ですが、第2期柏市スポーツ推進計画に計上されなかったことは大変残念なことです。今回のアンケートから解るように、現在の柏市民の「要望ナンバー1」です。是非、見直していただきたいと思います。</p> <p>今後、10年先の「中核都市・柏市スポーツ施設」の佇まいを思うに、現在の状態のままではあまりにも脆弱であると考えます。ここで、長期の大きなビジョンを掲げ、思い切った施策を打ち立てなければ手遅れになると考えます。これまでのような「その場しのぎ的」な改修・修繕の市政では、近隣の中核都市から取り残されていきます。そのためにも、是非とも「柏市総合運動公園」設立計画をお願いいたします。</p> <p>「県立柏の葉公園・運動施設」と共に二つそろえば盤石であり、市民の要望に十二分に応えられると確信します。</p>	No.12回答と同様となります。
15	柏市民健康づくり推進員連絡協議会 役員	山本 悦子	資料3別添	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答している方達は少しでもスポーツに関心があり、20代のスポーツをしている人が上昇しているのはそれもある。その関心をうまく引きつけて継続させていければ、その後の世代にも続いていくと思う。 ・ 子育て世代はやはり難しく、30～40代の子育て世代を子供と一緒にスポーツするようになれば、スポーツをする率が上がると思う。 ・ トップチーム招致はとてもいいと思う。色々なスポーツチームを招致できれば、広く関心をもたれると思う。 ・ 今後、SNSやITをもっと活用していくべき 	<p>若い世代の関心を引きつけるきっかけづくりとしての目的では、昨年のラグビーニュージーランド代表のキャンプ地招致に代表されるようなトップチームを活用した啓発にはスポーツに関わる人の裾野拡大という効果が見えた一方で、今後の他の事業展開にこの招致のなかで培ったノウハウやレガシーをいかに織り込んでその効果を継続させていくかに課題があると捉えています。</p> <p>また、子育て世代のスポーツへの参画については、現行計画の基本施策にも「親子スポーツの促進」として掲載がありますので、引き続き、事業展開を進めていく予定です。</p> <p>最後に、SNSやITを活用したスポーツ情報の周知については、No.2回答でも記載していますが、現行計画でも重点的な取り組みとして掲載しており、よい手法の検討を中心に各委員からの御意見をいただきながら継続的に取り組む必要があると考えております。</p>
16	柏市スポーツ推進委員協議会 会長	吉川 良子	資料1	多くの市民に向けて「第2期スポーツ推進計画」がまとめられていると感じられます。	<p>スポーツ推進計画はスポーツ活動を通じて市民の健康・体力づくり、仲間との連帯感の充実、地域コミュニティの形成など社会生活に対する複合的な効果をもたらすことを計画策定の趣旨としております。</p> <p>引き続き、こうしたスポーツがもたらす効果や計画全般について多くの方々にご理解いただけるような資料作成、情報発信に努めてまいります。</p>
17	柏市スポーツ推進委員協議会 会長	吉川 良子	資料3	<p>「する」スポーツの分析や課題は見えており、個人が取り組みやすく気軽に始められるスポーツの情報発信と場所の確保が大切だと思います。</p> <p>高齢者や女性、忙しい人には体操（ラジオ・ロコモ）やヨガ・筋トレなどが始めやすいのではないのでしょうか。</p> <p>このコロナ禍の中でリモート（無理なら動画）発信などが出来ないのでしょうか？</p>	<p>コロナ禍におけるスポーツ推進の在り方については、No.3回答と同様となります。</p> <p>また、具体的な取り組みとしては、資料3別添に記載している「少人数で気軽に取り組める運動やスポーツに関心が集まっている」ことを加味しながら、本市の特徴であるホームタウンチームと連携したオンラインでのトレーニング方法の紹介などが考えられます。</p>

No.	所属	委員名	該当資料	御意見・御助言	スポーツ課からの回答
18	柏市スポーツ推進委員協議会 会長	吉川 良子	資料3別添	<p>よく分析されていると思います。課題は見つかったが解決に向けての策を具体的にどのように進めていくかが大切な事と思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ実施率について、ハードルが下がったこともあり、実施率があがったのは理解できます。 ・年代別について、子育て世代の参加が促せるよう子供と参加できるようなイベントがあるといいと思います。また、幼児からの運動の習慣づけとなるような機会があるといい（地域にあればなお良い）と思います。 ・ホームタウンチームの認知度について、レイソル以外の他団体の認知度は低く活躍に比例していないように感じられます。市としてもっと応援していく姿勢があってもいいのではないかと。スポーツに関心を持ってもらういい「きっかけづくり」になるのではないかと思います ・「ささえる」スポーツについては東京オリパラで関心は高くなったのではないかと考えられますが、まだまだこれからと思います。 ・障がい者スポーツに関しては施設のバリアフリー化とともにユニバーサルマナーの教育や指導者の育成が障がい者スポーツの推進には欠かせないものだと思います。また、多くの団体と連携を組み取り組んでいくことも大切な事と思います。 ・柏市のスポーツに関する広報活動は不足していると感じます。各イベントのPRにも工夫が必要なのではないかと思っています。 	<p>子育て世代を対象とした事業の方向性やスポーツ情報の周知については、No15回答と同様となります。</p> <p>また、障がい者スポーツの推進については、平成30年度に「柏市障がい者スポーツ推進連絡会」を立ち上げ、関係機関や障がい者関係団体、スポーツ関係団体が連携してパラバドミントン出前授業やスポーツイベントを開催しております。今後も引き続き、障がいの有無にかかわらずにスポーツに携われる機会が提供できる事業展開を進め、スポーツに関わる人の裾野拡大やスポーツ実施率の向上に繋げていきたいと考えております。</p> <p>最後に、「ささえる」スポーツについては、本市でスポーツボランティアの経験を有する方が少なく、参加意欲も消極的な方が多いという課題を抱えている状況であり、各委員から御意見を賜りながらスポーツボランティアへの参加意義の周知や参加機会を増やしていく取り組みを検討してまいりたいと考えております。</p>
19	公益財団法人吉田記念テニス研修センター 所長	高橋 剛	資料1	<p>見直しについて、1点確認です。</p> <p>新型コロナウイルス感染症により、各スポーツの在り方(する・みる・ささえる・場所・情報)のやり方の様式が大きく変わると思います。</p> <p>新様式での恒久的な施設の利用ルールを見直す必要があると感じます。</p> <p>専門家のご意見も加えながら、新ルールを模索する必要がある。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症によるスポーツへの影響による計画見直しへの考え方は、No.3回答と同様となります。</p> <p>そのうえで、施設の利用ルールの見直しについて、市営スポーツ施設や学校体育施設では新型コロナウイルス感染症を踏まえて、スポーツ庁が公表している「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」等に沿ったガイドラインを策定しているところです。</p> <p>なお、今後の利用ルールの変更については、感染状況や国の動向、専門家の意見も踏まえながら、柔軟に対応してまいります。</p>
20	公益財団法人吉田記念テニス研修センター 所長	高橋 剛	資料2	<p>アンケート調査の結果を踏まえ、計画の変更も必要かと思いますが、計画の見直しと同時に予算の見直しは可能ですか。資金計画も大変重要な項目と想います。</p>	<p>予算編成スケジュール上、再来年度以降に反映させていきたいと考えております。</p>
21	公益財団法人吉田記念テニス研修センター 所長	高橋 剛	資料3別添	<ul style="list-style-type: none"> ・5Pの「場所」について 新型コロナウイルスの対策も兼ねて検討すると、公園・空地・山・川・沼の整備(既存の体育施設整備よりも)に注力した方が、親しみ方や柏の自然の活用に繋がり密集や密接を避けた家族の活用が増えるのではないかと。(6Pのスポーツをする理由も体力づくりや健康が主体で競技を高める目的は少ない) ・スポーツと言う観点では無く、娯楽の場が増える(川遊び等)方が良いと考えます。 ・19Pの今後のスポーツ施設の充実の所では、多目的広場やウォーキングのニーズが多く、新様式や高齢化を考えると外の施設充実が鍵になると思う。家族が手軽に親しめる施設づくりの方向性が見えてくる。 	<p>本市では、都市化が進む中で自然に親しむことが出来る場所が減少している側面もあります。委員から御意見頂いたように競技という観点だけでなく、体力づくりや健康づくりという観点からスポーツを捉えていくと、体育施設ではないが体を動かさずことができる自然を活用した場を確保していくことも有用であると思いますので、今後、庁内でも情報を共有出来るよう努めてまいります。</p> <p>また、今後のスポーツ施設の充実については、施設の統廃合や集約化を進めつつ、既存施設の整理や修繕等で利用者のニーズへの対応や利便性向上に注力していく必要があると考えています。</p>
22	柏市スポーツ少年団 本部長	露木 循	資料3	<p>異議ありません。簡単な運動、ジョギング等も含まれるなどの表記は判り易くて良いと思います。</p>	<p>スポーツの定義について、「第2期柏市スポーツ推進計画」では、簡単な運動、ジョギングなど運動不足解消のための簡単な運動も含め、幅広く定義づけをしています。</p> <p>一方、昨今では、eスポーツやマインドスポーツといった大きな身体活動を伴わない競技もスポーツとして捉える動きがあるなどの流動性も見受けられます。</p> <p>本計画の見直しに際してのスポーツの定義についても、改めて各委員からの御意見をいただきたいと考えております。</p>
23	柏市スポーツ少年団 本部長	露木 循	資料3別添	<p>とても判り易くまとめてあり、実態の把握もしやすい。</p> <p>内容については「えっ？」という点も「納得」という点もある。委員の皆様とぜひ協議し認識を共有したい。</p>	<p>No.16回答と同様となります。</p>
24	柏市女性スポーツ協会 会長	佐藤 紀美子	資料3	<p>柏市女性スポーツ協会役員会で、勉強させていただきます。</p>	<p>役員会での勉強後に御意見や御質問などあれば、随時お受けいたします。</p>

No.	所属	委員名	該当資料	御意見・御助言	スポーツ課からの回答
25	一般社団法人柏市医師会 理事	南 徳彦	資料1	基本的には良いと思います。 コロナ感染拡大の影響で、スポーツ施設を利用した活動が制限されていますので、自宅や広場で行えるスポーツに重点を置いた記述の追加も必要かと思われます。	No.3回答と同様となります。
26	一般社団法人柏市医師会 理事	南 徳彦	資料3別添	<ul style="list-style-type: none"> ・2-(1)-②「“スポーツをしたい”という結果になっている」となっていますが、2-(1)-①では、「調査毎に割合が漸減している」となっているので、「年代別にはスポーツへの意欲には差がなかった」とした方が良いと思いました。 ・2-(1)-③ではスポーツ意欲の調査結果とは逆に「20代、30代での実施率が低く、50代以降が調査毎に伸びているのに対して伸び率も低い」との解析を入れた方が良いと思います。 ・2-(1)-⑦,⑧、5-(3)の棒グラフは数字の大きい順に並べた方が良いと思います。 ・今回の推進審議会の内容と少しずれますが、5-(5)にて柏市公共施設等総合管理計画では「施設の老朽化や利用者減少が進む中での統廃合や集約の検討」とありましたが、5-(6)では「多目的広場」の希望が多いことから老朽化した施設の跡地に多目的広場を作り、建築コストや管理コストを下げるのがアンケート結果に一致する内容と思いました。 ・6-(2),(3)ラグビーの事前キャンプを行うことによりラグビーに関心を持つ人が増え、観戦したいと思う人が増えたことは、スポーツに接する市民（特に若者）の裾野を広げることに繋がったと思います。ラグビー以外にも活動を広げていくことが今後の課題だと思います。 	<p>いただいた記載方法の御意見については、見直し計画作成の際に反映させた形で記載させていただきます。</p> <p>また、施設活用の方向性に係る御意見については、今後、施設の統廃合や集約化を進めつつ、既存施設の整理や修繕等で利用者のニーズへの対応や利便性向上に注力していくなかでの参考とさせていただきます。</p> <p>最後のトップチームの招致については、No15でも回答しているとおり、昨年のラグビーニュージーランド代表のキャンプ地招致に代表されるようなトップチームを活用した啓発にはスポーツに関わる人の裾野拡大という効果が見えた一方で、今後の他の事業展開にこの招致のなかで培ったノウハウやレガシーをいかに織り込んでその効果を継続させていくかに課題があるとも捉えています。</p>